



六世紀前半に造られた円墳です。横から入る構造(横穴式石室)で、羨道・前室・玄室からなります。玄室内は、赤白青の三色で人物・連続三角文などが画かれた装飾古墳です。石人(県指定重要文化財↓三七頁)・埴輪・須恵器・鉄器・装身具類が出土しています。(前田)

市指定

史跡

白塚古墳

うすづかこふん

史  
1

所在地

石塚  
地 図

P.141 128

市指定

史跡

竜王山古墳

りゅうおうざんこふん

史  
2

所在地

杉  
日輪寺  
地 図

P.141 129



日輪寺山(竜王山)山頂に築かれた豪族の墓で、築造は四世紀末〜五世紀初頭と考えられています。市内の古墳の中では最古級のもので、竪穴式石室を有する唯一の古墳です。昭和四十四年「ツツジ公園」造成中に発見されました。(前田)



赤穂藩の大名内蔵助ら十七名が細川家預りのうえ切腹した遺髪を、細川家々臣であった堀内伝右衛門が檀那寺の日輪寺で供養した碑です。毎年、二月四日に義士祭が行われ、供養が続いています。(橋本)

市指定

史跡

赤穂義士遺髪塔

あこうぎしはいはつとう

史一三

所在地

杉日輪寺  
地図

P.141 130



平安時代後期(二〇世紀頃)にあった塔の心柱を支える礎石です。石の中央には直径四二センチ、深さ六センチのほぞ穴が彫られています。その大きさから、塔は三重塔であったと考えられています。この周辺からは、布目瓦などが見つかっています。(事務局)

市指定

史跡

中村廃寺心礎

なかむらはいじしんそ

史一四

所在地

中熊野神社  
地図

P.141 131

市史跡



墓地右側には、当地の開発に尽くした御宇田氏の功績を称える崇真の碑（記念碑）が立っています。その奥には、御宇田どんの墓といわれる高さ一一一呎、最大幅七九呎の五輪塔があります。なお、墓所の南下段には、寛正七（一四六六）年の紀年銘のある凝灰岩、自然石の板碑（甲佐合戦の戦死者の供養）が立っています。（大壘）

市指定

史跡

御宇田氏墓所

みうたしぼしよ

史一5

所在地

鹿本町

御宇田

地図

P.140 132



釜石と呼ばれる大きな石積みは、古墳の石室です。駄の原長者と菊鹿町の米原長者との宝くらべ伝説で知られるこの地帯は、はるか縄文の昔からの生活の場であつたようで、黒曜石の鏃などが数多く採られています。今は圃場整備事業でなくなっていますが、釜石の近くには、馬走りといった細長い畑がありました。（飯田）

市指定

史跡

駄の原釜石古墳

だのはるかまいしこふん

史一6

所在地

鹿央町

合里 駄の原

地図

P.141 133



平安時代（康平元（一〇五八）年に建立されました。京都の延暦寺と同様、元号を名前とした数少ないお寺です。比叡山にならった山岳寺院で、当時は多くの僧が修行していたそうです。現在のお堂は、江戸時代中期の宝暦ごろ（一八世紀中頃）の建立と伝えられています。（菊川）

市指定

史跡

康平寺

こうへいじ

史  
17

所在地

鹿央町

霜野

地図

P.141 134



康平元（一〇五八）年、後冷泉天皇が恵公上人に建てさせた天台宗のお寺と伝えられています。康平寺を中心に、四方にある谷のうち、北の谷を守護する寺として栄えました。境内には、天文十八（一五四九）年の刻銘を持つ大乗妙典奉納の塔のほか、石塔群が立ち並んでいます。（菊川）

市指定

史跡

長福寺

ちようふくじ

史  
18

所在地

鹿央町

北谷

地図

P.141 135



岩原川西岸崖面に造られた横穴群です。昭和四十八年に鹿央町教育委員会が調査を実施し、四八基の存在を確認しました。この横穴群の特徴は、密集度が高いことです。横穴が上下重なるように、三段にわたり開口しています。横穴内部は複室も認められませんが、単室が大部分です。(多田隈)

市指定

史跡

下米野横穴群

しものよこあなぐん

史 9

所在地

鹿央町  
合里 下米野

地図

P.141 136



岩原古墳群から南東約五〇〇メートルの地点で、岩原八幡宮のすぐ近くにある円墳です。東西二六・五メートル、南北二二・三メートル、高さ五・五メートルの大きさで、周辺が削平されて、やや楕円形になっています。墳丘の北側斜面では石材が露出し、南斜面は平坦に削られて、観音堂が建っています。(多田隈)

市指定

史跡

鬼塚古墳

おにつかこふん

史 10

所在地

鹿央町  
岩原

地図

P.141 137



2号墳



1号墳

旧鹿央クリンセンタ―近くにありま  
す。「双塚」とい  
名のとおり、二基の  
円墳があります。一  
号墳は、横穴式石室  
で、石室内部が開  
し、天井石が露出  
しています。  
二号墳は、周溝が  
確認されただけで、  
主体部は未調査のた  
め分かっていませ  
ん。出土品には、須  
恵器（甕と坏）片が  
あります。（江藤）

市指定

史跡

双塚古墳

ふたつかこふん

史—11

所在地

鹿央町  
広下原

地図

P.141 138



古墳時代後期の  
円墳で、近くに  
ある双塚古墳と同種  
の円墳と思われる  
ますが、まだ調  
査されていま  
せん。  
昔は、付近に古  
墳が点在してい  
らしいのですが、  
ほぼ原形のまま  
今も残っている  
のは、この下原  
古墳だけで、大  
変貴重なもの  
です。（江藤）

市指定

史跡

下原古墳

しもじまこふん

史—12

所在地

鹿央町  
広下原

地図

P.141 139



この場所は、熊本城から五里の場所にあたります。以前は、道の両脇の塚に雌雄の榎が植えられていましたが、昭和三〇年代に枯れ、今は東西の塚だけを残しています。豊前街道中、歴然と江戸時代の姿を残す唯一の場所です。天保十三（一八四二）年の「略手鑑」や「元禄国絵図」（一七世紀末）などにも記録が残っています。（多田隈）

市指定

史跡

元広の豊前街道里数木跡

もとひろのぶぜんがいでうりすうぎあと

史 13

所在地

鹿央町  
広元広

地図

P.141 140



「かいこの神様」といわれ、肥後の養蚕業の普及発展に貢献した志賀親民半右衛門（隠居して島已兮と改名）のお墓です。下米野に住み、養蚕ならびに織絹方主任を仰せつけられ、広く肥後の各地を巡回し指導にあたりました。その功績が認められ、藩から度々褒賞を受けています。寛政八（二七九六）年十二月二日、七十五歳で亡くなりました。（江藤）

市指定

史跡

島已兮の墓

しまいけいのはか

史 14

所在地

鹿央町  
合里下米野

地図

P.141 141



市指定

史跡

千田八島

ちだやしま

史  
15

所在地

鹿央町  
千田八幡宮

地図

P.141 142

千田八幡宮内の大きな池の中に八つの島があります。そこには次のような伝説が残っています。

今(ゆかり)一七〇〇年前、景行天皇が熊襲征伐のため、山鹿に着かれ、この付近の賊を退治されました。その当時、この一帯は「茂賀の浦」という湖だったのですが、中から八つの頭を持つ大亀が現れ、やがて天に昇り、八神の姿となりました。そこで天皇は、八つの島を設け、その八神を祀られたとのことです。

(江藤)



市指定

史跡

西福寺磨崖仏

さいふくじまがいぶつ

史  
16

所在地

城  
西福寺

地図

P.140 143

楠と椋の巨木の根元にある崖面に、二体の観音像が陽刻されています。右面の聖観音像には正平二十四(一二三六九)年の銘が見えます。この周辺は中世の禅寺である、西福寺の跡地とされており、磨崖仏もその寺に関連するものと考えられています。

(福本)

市  
史跡



菊池川の東側、川北集落の北方に開けた水田地帯の中にあります。立地の中央に残る残丘と付随する小塚一基からなり、古墳時代前期の前方後円墳と推定されています。

また付近では弥生時代の甕棺が一基発掘されています。平野部を望む丘陵や台地上に墓地が作られていた時代、低地にあたるこの地に既に人が住み、古墳を造る権力者がいたことを示す貴重な遺跡です。

(限部)

市指定

史跡

中川双子塚

ながかわふたつか

史  
17

所在地

鹿本町  
中川

地図

P.140 144

市指定

史跡

亀塚古墳

がめづかこふん

史  
18

所在地

方保田  
塚の本

地図

P.141 145



かなり破壊さ  
れていて、元の  
形を残していま  
せんが、前方部を  
東へ向ける前方  
後円墳です。正  
式な調査が行わ  
れていないので、  
時代や内部など、  
詳細は不明です。

(事務局)



亀塚古墳から西へわずか八〇呎の地点にある円墳です。菊池川の流れによって、墳丘南側が削られていまます。かつて測量されたときには、直径二六呎、高さ六・八呎でした。内部はまだ調査が行われていないので不明です。  
(事務局)

市指定

史跡

端山塚古墳

はやまつかこふん

史  
19

所在地  
方保田  
塚の本  
地図

P.141 146



戦国末期（十六世紀末）に起こった肥後国衆一揆の戦没者を供養するために、有縁者が地藏尊を刻んだといわれています。このほか、室町時代と推定される地藏尊も見られ、地藏尊の総数は二〇体近くに上るようです。  
(福本)

市指定

史跡

円通寺口の岩地藏

えんつじくちのいわんじぞう

史  
20

所在地  
城  
円通寺  
地図

P.141 147

市指定

史跡

北山円心の塔

きたやまえんしんのとう

史 | 21

所在地

鹿北町  
芋生 釘の花

地図

P.139 148



北山円心は芋生の宮相撲の力士でしたが、いつも負けるので彦岳権現さんに願いをかけ、毎日猛宗竹を一本ずつ担いで上り、一心に願いをかけました。そして百日目の満願の日、ついに願いが叶い、百本の竹を一度にかついで帰る程になりました。その満願成就の碑です。  
(高巣)

市指定

史跡

御宇田五山跡

みうたごさんあと

史 | 22

所在地

鹿本町  
御宇田

地図

P.140 149



西光寺跡



安養寺跡



中正寺跡



実西寺跡



大光寺跡

平安末から室町時代の頃、御宇田氏は五つの寺院を創建して、この地方の文化の拠点としました。御宇田五山は、安養寺、大光寺、中正寺、実西寺、西光寺を指します。その跡は、庶民信仰の対象となり、現在に受け継がれています。

(大壘)



宇土城主で、キリシタン大名の小西行長は、慶長五(二六〇〇)年、関ヶ原の戦いで敗れ、処刑されました。その死を悼んで、家臣や信徒たちが建立した供養塔とされています。塔には、慶長五年十月六日の銘があり、石碑の下端には十字の刻印があります。(隈部)

市指定

史跡

小西行長供養塔

こにしゆきながくようとう

史 | 23

所在地

鹿本町  
中川 川北

地図

P.140 (150)



下高橋の集落を通る県道沿いに、六地藏と並んで現存しています。二本の石柱の間に、板を挟む構造になっています。

高札とは江戸時代の掲示板で、幕府の発する法令や藩の達しを示して、住民に知らせていました。(芹川)

市指定

史跡

下高橋の御高札場跡

しもたかはしのごこうざつばあと

史 | 24

所在地

鹿本町  
下高橋

地図

P.140 (151)



古墳時代後期  
 (約一五〇〇年前)  
 の横穴式石室を持つ  
 円墳です。墳丘  
 の直径は約一六  
 畧で、周りに幅約  
 五十センチの周溝しゅうこうをめぐら  
 しています。  
 昭和五十三年の圃  
 場整備事業で発掘  
 調査され、石室内  
 から刀子とうす、鉄鏃てつそく  
 などの副葬品が出土  
 しました。(飯田)

市指定

史跡

堤古墳

つつみこふん

史  
 25

所在地

鹿央町  
 合里 寺米野

地図

P.141 152



芹ヶ迫古墳は、  
 駄の原釜石古墳が  
 ある台地の東端部  
 に位置します。古  
 墳時代後期(約  
 一五〇〇年前)の  
 円墳二基で、墳丘  
 の周りには円形の  
 溝がめぐっています。  
 残念ながら墳  
 丘は、かなり削ら  
 れています。  
 (飯田)

市指定

史跡

芹ヶ迫古墳

せりがさここふん

史  
 26

所在地

鹿央町  
 広 上広

地図

P.141 153



昭和五十五年の圃場整備の際に、一〇基の方形周溝墓が発見され、調査されました。石棺の種類はさまざまで大変貴重であることから、整備地の一角に石棺を集め、埋め戻して保存されています。なお出土品としては、四世紀後半から五世紀中頃の丹壺、櫛などがあります。

(江藤)

市指定

史跡

浦大間古墳群

うらだいまこふんぐん

史  
27

所在地

鹿央町  
千田上千田

地図

P.141 154



加藤清正の家臣で、上内田村を給地された庄林隼人は、水不足に苦しんでいた原、中原地区の灌漑工事に貢献したと伝えられています。この場所は、隼人が火葬された場所で、彼への報恩の碑が地元住民によって建立されています。(事務局)

市指定

史跡

庄林隼人自休居士荼毘塚

しょうばやしはやとしぎゅうこじ  
だびづか

史  
28

所在地

菊鹿町  
上内田原

地図

P.140 155



隈部氏とその縁類の墓地です。宝篋印塔・五輪塔・板碑があり、塔銘に喜伯道悦天文八年己亥閏六月十日（隈部貞明・十一代）、高峰順天天文十九年庚戌六月十八日（隈部親家・十二代）など全部で七基ほどが見られます。（竹下）

市指定

史跡

清潭寺の隈部家墓地

せいたんじのくまべけぼち

史—29

所在地

菊鹿町  
上永野清潭寺

地図

P.140 156

市指定

史跡

湯の口溜池附遠山神社

ゆのくちためいけつたたり  
とおやましんじや

史—30

所在地

蒲生

地図

P.140 157



溜池は遠山彌二兵衛<sup>え</sup>によって安政二（二八五五）年から二年がかりで築造されました。これにより、当時約五〇〇畝の土地への用水が可能となりました。神社は遠山氏の遺言により、溜池横に建立されました。毎年四月四日、氏の遺徳を偲び、区民こぞって例祭を行っています。（森本）



市指定

史跡

城  
村  
城  
跡

じょうむらじょうあと

史—31

所在地

城  
字  
城

地図

P.141 158

菊池八代能隆よしたかの第  
四子隆経たかつねが、文永五  
(一二六八)年入居し、  
城氏じょうを名乗ります。  
天文十九てんぶん(一五五〇)  
年、十二代城親冬ちかふゆ  
が隈本城に移った  
ため隈部親泰ちかべちかやすが入城  
しました。天正十五  
(二五八七)年の肥後  
国衆一揆では、この  
城を中心に、隈部軍  
と佐々軍で大きな戦  
いが行われました。  
(福本)



市指定

史跡

平  
山  
城  
跡

ひらやまじょうあと

史—32

所在地

平山  
字大門

地図

P.139 159

室町時代の初期  
に菊池家の分家だ  
ある、蛇塚九郎定  
氏へびづかの三男平山秀世  
によって築城され  
たと伝えられてい  
ます。廃城時期は  
不明ですが、永正  
元えいせい(一五〇四)年  
に平山秀直ひらやまひらなの名が  
あるので、この頃  
までは続いていた  
ようです。西南戦  
争では、政府軍の  
陣地として使用さ  
れました。  
(福本)

市  
史跡



天正十五（一五八七）年の肥後国衆一揆の時、佐々成政が城村城を攻めていると、佐々の本城である隈本城が攻められました。成政は、軍を引き揚げる際、備えとして東西二つの出城を築きました。成政軍の一八〇余名がここに籠ったとされています。（福本）

市指定

史跡

西付城跡

にしつけじょうあと

史—33

所在地  
城  
院の馬場  
地図

P.141 160



鞠智城きくちじょうの近くにある円墳です。伝説では「米原長者よなほろどんの金蔵かねくら」といわれています。内部は横穴式石室で、普通の大きな石室とさらに小型の石室を持っています。築造年代は六世紀後半頃と推定されています。（平井）

市指定

史跡

黄金塚古墳

こがねづかこふん

史—34

所在地  
菊鹿町  
松尾 鐘掛松

地図  
P.140 161



正面に「飯元了心靈仁／宝永六年／十二月十日」、裏面の左下に「芋生糸ちせんよ代め俗名小平次」と彫られています。このことから宝永年間（一七〇四～一七一一）この地を支配していた芋生撰津守四代目の墓ではないかと伝えられています。

（高巢）

市指定

史跡

芋生撰津守四代目の墓

いもうせつつかみ  
よんだいめのほか

史  
—  
35

所在地

鹿北町  
芋生才野

地図

P.139 162



昭和六十一年に県営畑総事業に伴い発掘調査が実施され、八～九世紀を中心とした建物跡などのほか、中国の青磁（越州窯）や硯（円面硯）、帯の飾具（石製巡方）など貴重な品々が発見されました。当時の役所かその関連施設跡と考えられています。

（大墨）

市指定

史跡

妙見遺跡

みょうけんいせき

史  
—  
36

所在地

鹿本町  
御宇田

地図

P.140 163



市指定

史跡

中尾古墳

なかおごふん

史  
—  
37

所在地

鹿央町  
千田 中尾

地図

P.141 **164**

植木町との境界  
近くの山林の中に  
あります。  
直径が一〇メートルを  
超える円墳です。  
既に盗掘されて  
いるようで、詳細  
は未調査のため不  
明です。(江藤)



市指定

史跡

久野古墳

ひさのごふん

史  
—  
38

所在地

鹿央町  
千田 久野

地図

P.141 **165**

全長約七十メートルの  
巨大な前方後円墳  
です。残念ながら、  
後円部は共同墓地  
として利用されて  
いるため、十分な  
調査ができていま  
せんが、当時の時  
の有力者・豪族の  
墓と思われます。  
『鹿本郡誌』にも  
記されていて、石  
棺が見えたとあり  
ます。(江藤)



古墳中期の円墳とされています。『鹿本郡誌』には「円形古墳にして殆ど完全なり。周囲十九間、高さ二間三尺なり。万里の名馬戦に疲れて、ここに死したるを埋める。」とありますが、これは「早馬」という地名からの伝承と思われます。(江藤)

市指定

史跡

早馬塚古墳

はやまづかこふん

史  
39

所在地

鹿央町  
千田宮

地図

P.141 166



代々、内空閑<sup>うちこが</sup>氏の居城で、肥後国衆一揆後に廃絶したようです。城の総面積は九畝以上に及びます。尾根の最高部分(茶臼と呼ばれている)が整地され本丸となり、北東部は高さ一〇畝余りの切り落としが造られています。また、その下段にはお花畑と呼ばれる広い平地があつて、そこから焼米や生活用具などが出土したという記録が残っています。(菊川)

市指定

史跡

霜野城跡

しものじょうあと

史  
40

所在地

鹿央町  
霜野

地図

P.141 167



市指定

史跡

建立寺跡

けんりゅうじあと

史  
1  
41

所在地

鹿央町  
合里寺米野

地図

P.141 168

米野には昔、寺が九つあったとあり、現在も寺跡の五ヶ所が立派に残っています。建立寺はその中で、創建について判る唯一の寺です。創建碑には、次のように刻書してあります。

永正年中為主持金剛佛子快眞法師造立ノ敬白 正徳丙申七月完日 当時開基永正一〇癸酉三月五日 施主尾崎喜左衛門

(飯田)

市指定

名勝

不動岩

ふどうがん

名  
1  
1

所在地

蒲生

地図

P.140 169

さざれ石の巨大岩石で、前不動、中不動、後不動の三岩からなります。付け根には不動神社の拝殿があります。この地方に住む人の精神的シンボルであり、奇岩名勝として熊本二十五景の一つにも数えられています。

(森本)

